

《 沖縄県鉱工業指数 利用上の注意 》

1. 基準年次

平成27年を基準年次としています。そのため、指数値は平成27年の平均を100.0とした比率で示されます。また、ウェイトは平成27年の産業構造によるものです。

2. 対象範囲

日本標準産業分類の大分類製造業及び鉱業に属する産業を対象としています。

3. 指数の種類及び採用品目

指数の種類は生産指数、生産者出荷指数、生産者製品在庫指数の3系列となっており、採用品目は、生産指数及び出荷指数が85品目、在庫指数が66品目となっています。

4. 分類

日本標準産業分類(平成25年10月改定)を基本とした業種別分類と採用品目の経済的用途により財別に格付けした特殊分類の2つの分類を設けています。なお、特殊分類の指数は毎年作成している年報で公表しています。

鉱工業指数における財分類の定義

財 分 類	定 義
鉱工業総合	
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない最終製品。建設財を含み、企業消費財を除く。
投資財	資本財と建設財の合計。
資本財	家計以外で購入される製品で、原則として想定耐用年数が1年以上で、比較的購入単価の高いもの。
建設財	建築工事に用いる資材及び衛生用陶磁器等の建築物に付随する内装品及び土木工事の資材。
消費財	家計で購入される製品。
耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年以上で、比較的購入単価が高いもの。
非耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年未満で、比較的購入単価が低いもの。
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料等として投入される製品。企業消費財を除く。
鉱工業用生産財	鉱工業の生産工程に原材料、燃料、部品、容器、消耗品、工具等として再投入される製品。
その他用生産財	非鉱工業の原材料、燃料、部品、容器、消耗品及び企業消費財。

5. ウェイト

生産指数は付加価値額ウェイト、出荷指数は出荷額ウェイト、在庫指数は在庫額ウェイトとなっています。ウェイトの算定は、基準年次である平成28年経済センサス活動調査及び生産動態統計調査を基礎資料としており、鉱工業全体が10000.0となるように各品目が構成されています。

6. 指数算式

指数の算式は、基準年時に固定されたウェイトで加重平均するラスパイレス算式です。

$$\text{個別指数} = \frac{\text{比較時数量}}{\text{基準時数量}} \times 100$$

$$\text{総合指数} = \frac{(\text{個別指数} \times \text{基準時ウェイト})\text{の総和}}{\text{基準時ウェイトの総和}}$$

7. 季節調整

季節調整とは、おおむね1年を周期とする季節性(天候や季節による自然条件、盆、正月などの社会的習慣や決算期などの制度等の影響)を統計データから除去することをいい、この季節性を除去した指数を季節調整済指数といいます。

本県では、季節調整の方法として、生産・出荷指数はアメリカセンサス局で開発されたX-12-ARIMAを、在庫指数はX-12-ARIMAの中のX-11デフォルトを採用しています。なお、鉱工業指数では季節要因に加え、曜日・祝祭日、うるう年要因によっても調整されています(在庫は季節要因のみ)。

$$\text{季節調整済指数} = \text{原指数} \div (\text{季節} \cdot \text{曜日} \cdot \text{祝祭日} \cdot \text{うるう年指数})$$

8. 統計表中の符号

「-」:該当数値のないもの

「▲」:負の値又は減少

「X」:調査対象事業所が少ないため
秘匿としたもの